

学校自己評価・中間報告のまとめ（考察と今後の方策）

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、本年度も新型コロナウイルスの関係で様々な学校活動に制限がかかる中でも、学年の宿泊行事、学校祭等、できる範囲で行うことができてきました。これも、生徒のみならず、ご家庭で感染対策等にご協力いただいているおかげです。今後も、引き続きご協力の程よろしくお願ひいたします。

さて、以前ご協力いただきました生徒アンケート・保護者アンケートをもとに、私ども教職員も自己評価を実施し、その結果を考察して、改善の方向を導き出しました。今後も生徒のさらなる成長を、教職員一丸となって支援していく所存です。なお、次回は来年の1月に実施予定です。今後とも保護者の皆様の、ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。（詳細につきましてはホームページをご覧ください）

「四中学びスタイル」の定着から、さらに主体的な学びへ。

今年度質問の問いを変更した「授業内容をおおむね理解している」について、86%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と良い回答をしています。また「授業の約束や時間を守って学習に取り組んでいる」と感じている生徒は94%に達し、日々の授業の充実した様子がうかがえる結果となりました。単元テストも実施3年目になり、「単元テスト・チャレンジテストは家庭での学習の意欲向上につながっている」としている生徒は80%となり、自ら学びに向かう自主的な学習の姿につながる結果となりました。

保護者については、76%とおおむねよい評価となっています。一方、「家庭での学習が定着している」の質問に対しては、48%が（良い）評価で、49%が（悪い）評価でした。生徒と保護者と異なる結果となり、家庭での学習については、家庭での支援をいただきながら、学習の内容や取り組み方のアドバイスなどをしていきます。

「自分の良さ」や「友の良さ」を理解し、自己肯定感を養う。

「自分の良さや友の良さを理解し、学校生活でいかそうとしている」という質問に対し、達成できたと回答した生徒は82%でした。生徒が友の良さを理解し、良好な人間関係を築こうとしている様子が伺えました。

学年担任制に対して、「いろいろな先生と接したり、話したりする機会が増えたか」の問いに生徒の74%がそう思うと答えています。保護者では51%がそう思う。36%がそう思わない。と答えています。また、「生徒に寄り添い、毅然とした指導が行われている」については、保護者の72%がそう思うと回答していることから、良さを生かして、今後より良い体制になるよう、情報共有による共通理解を深め、引き続き全職員で見守る体制を作っていきたいと考えています。

生徒が主体的に活動する場の設定

生徒の主体的な活動を目指した「四中アカデミー」では個別学習の取り組みや特別講師を招いてのキャリア教育を行いました。「四中クリエイティブタイム」では、生徒会活動と、ゼロワンチャレンジを中心に据えて活動を行いました。

生徒のアンケート結果では主体的に関われたと答えた生徒が88%と自ら考えて行動する難しい活動ではありながらも、意欲的・主体的に関わろうとする四中生の姿がありました。また、保護者アンケートからは75%の良い評価を得ている一方、わからないとする評価も一定数ありました。

新たな活動への意欲も出てきている姿を前向きに捉え、より実感として充実感・達成感の持てる活動になるよう、今後も学校行事、学年行事、部活動、生徒会活動などを通して、生徒が主体となって活動できるよう支援していきたいと思ひます。

あいさつ・清掃・合唱の三本柱

四中プライドを築いていく3本柱の「あいさつ・清掃・合唱」の充実を今年度の重点活動にしています。コロナ禍の制約で思いっきりやり抜くことがしにくい活動ではありますが、あいさつは82%、歌唱活動には89%の生徒が、積極的に取り組んだと答えています。

今後の新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染状況に左右されてしまうことが多い活動ですが、皆で知恵を出し合い工夫し合い、より満足感の高い活動となるように支援していきます。保護者の皆様にもこれまでと同様の健康観察や健康管理にご理解とご協力をお願いします。